特定非営利活動法人　赤煉瓦倶楽部舞鶴

会報９２号　平成２７年５月１日

ＮＰＯ法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴　会報
発行人／理事長　馬　場　英　男
〒625-0036　舞鶴市浜２４７番地
（志摩機械三条ビル３階）
TEL/090-3281-7539　FAX/0773-63-9764
E-mail　brick@iris.eonet.ne.jp

「ＮＰＯ法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ　http://www.redbrick.jp/

目　次

１　急逝した森口清滋理事を偲ぶ　追悼文、思いで写真
２　連載「我が国の近代土木遺産５」　こいけ りか　氏
３「台湾の煉瓦王・後宮信太郎」　小野　章　氏
４「赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会」概要　事務局
５　平成２７年度通常総会開催について　事務局
６　編集後記　事務局

１．　急逝した森口清滋理事を偲ぶ　理事長　馬場　英男　（会員No.8）

３月２７日未明、当法人理事の森口清滋さんが５７歳の若さで急逝した。前日、舞鶴市役所勤務中、体調異変で病院に救急搬送されたが、重度のくも膜下出血との診断で意識が戻ることなく帰らぬ人となった。突然の連絡で、病院に駆けつけたが、普段と変わらぬ静かに眠るような顔を今も忘れられない。数時間後に予定されていた部長昇格内示直前だっただけに、残念でならない。心からご冥福をお祈りする。永年にわたり親友として楽しい人生を歩んだ事、一生忘れない。合掌

以下、法人理事による追悼文と思い出の写真を掲載する。

■理事長　馬場英男　「森口清滋さん、貴方は、永年、赤煉瓦を活かしたまちづくり活動にまい進されてきました。３年前にオープンした「舞鶴赤れんがパーク」整備の担当課長としても力を発揮しましたね。思えば、２７年前の市職員によるまち研に始まり、赤煉瓦倶楽部舞鶴、赤煉瓦ジャズ祭、赤煉瓦ネットワークと、まちづくり団体の中心メンバーとして尽力されてきました。貴方が果たした功績は、永遠に語り継がれる事でしょう。心からご冥福をお祈りいたします。」（３月２９日告別式弔文）

■副理事長　日向　進「平成２年に結成された『まいづる建築探偵団』の結団式が初対面であった。旧上野家住宅の修復活用事業では、市の担当と設計担当という関係で、あつい意見交換を重ねた。はにかみを含んだ朴訥な人柄は変わることはなかった。」

■副理事長　梅本徳夫「森口清滋さんとの出会いは赤煉瓦ジヤズ祭が初めてでした。京都府北部で最初にｅｏ光通信に取り組むなど先進的な考えの持ち主でした。これからの活躍を期待していましたが残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。」

■理事　石原雅章「森口さんと一緒に、赤れんが倉庫の保存のため草刈りをし、暑い夏の日にジャズ祭の準備をしたことが、私の大切な思い出です。まちづくりの大きな推進力を失ったことは残念でなりません。安らかにお眠りください。」

■理事　鷲田龍作「森口清滋さんのご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。舞鶴市の為に、今からも大活躍されるはずが突然！本当に残念です。森口さん、ありがとうございました。」

■理事　吉岡博之「突然の別れに言葉も見つかりません。明日は元気な姿を見せてくれるのではと思えます。前日の夜、息子のことを嬉しそうに話していたことを思い出します。森口さんありがとうございました。安らかにお眠りください。」

■理事　川﨑修洋「君との出会いは、赤煉瓦ジャズ祭実行委員会であったと記憶しています。共に赤煉瓦ジャズ祭の準備に没頭した事は、昨日のように強く記憶に残っています。又、ネットワークの各地開催に同行し雑談した事など思い出すと胸つまる思いです。どうか安らかにお眠りください。　合掌」

■理事　森真理子「舞鶴との出会いは森口さんなくしてはあり得ませんでした。森口さんのまちづくりへの思いが、まいづるRBを産みました。舞鶴と森口さんと出会えたことは私の生涯の財産です。その財産を大切にしていきます。心よりご冥福をお祈りいたします。」

■理事　小野　章「森口さん、湾岸戦争の直前に一緒にアメリカ西海岸に行ったことがありましたね。次はドイツに行きたいと話されていましたが、実現できないままで残念です。お世話になり有難うございました。合掌。」

■理事　隅垣とし子「「森口さんと理事さんとの楽しいやりとりや笑い声。『心配せんでもよいで』と励まして下さった事・・

笑顔と声が聞こえて来そうです。早すぎるお別れですが、どうぞ安らかにお眠り下さい。ありがとうございました。」

■理事　岡本敏雄「会議でご一緒にさせて頂いて数日後、突然の訃報には信じられなく、人違いではと疑ってしまいました。息子さんのご挨拶でハワイで結婚式をとお聞きし涙が止まりませんでした。天国からバージンロードをご一緒にお歩き下さい。合掌」

神崎ホフマン窯大発見　1990.7.7　（前列右から２人目）
横浜まち研、日向進・水野信太郎先生、まいづる建築探偵団
この発見で、まちづくり活動が活発化

「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」視察
廃校プロジェクト・旧菟平小学校に日比野克彦氏を訪ねる
翌年、明後日朝顔ｐｊｉｎ舞鶴を開始。2009.7.28　（右端）

第３回ティファニー財団賞受賞式　2010.6.29　（左端）
東京南青山梅窓院にて、伝統文化振興賞（銀製トロフィー）

自治体学会 2011 年度「田村　明まちづくり賞」受賞式
法政大学にて（ブロンズメダル）　2011.10.9　（左）

2.　連載「我が国の近代土木遺産５」　～ ドボクイサン重箱の隅 ～

こいけ りか　（特別会員 No.87 (公財)日本交通公社）

前回は、舞鶴市の水源でもある東舞鶴地域の水道施設に刻印されている海軍の文様をご紹介したが、今回は、他の都市で海軍が建設した施設や設備に表記されている文様を見ていきたい。

神奈川県の横須賀は、横浜に置かれていた東海鎮守府が明治 17(1884)年に移設され、横須賀鎮守府に改称されたことが都市発展の一大契機となった。鎮守府移設以前の横須賀は、慶応元(1865)年に開設した横須賀製鉄所が、明治 3(1871)年に拡張工事を経て横須賀造船所となり、海軍病院が整備されてはいたものの大規模な人口増加やそれに伴う都市整備はまだであった。横須賀への鎮守府移設にともない、山の多い地形にトンネルや坂を開いた道路整備と、陸海軍が共同で明治 21(1888)～22(1889)年に大船～横須賀間を敷設した軍用鉄道(現 JR 横須賀線)は、横須賀が近代都市へ発展する大きな役割を果たした。

画像①ハンドホールの刻印

画像②消火栓の刻印

画像③マンホール蓋の刻印

横須賀も舞鶴同様、海軍が都市インフラを整備した街である。画像①～③は、横須賀市内の小公園に移設された波と錨の刻印のある鋳造品で、①は止水弁のハンドホールだろうか？大正５(1916)年の刻印が下部の膨らみに鋳込まれている。②の消火栓の年代は不明だが表裏両面に波と錨が鋳込まれている。③のマンホール蓋は、マンホールの用途は不明だが非常に鮮明かつ規格化された波と錨が見られる。

画像④ハンドホール蓋刻印詳細

画像⑤消火器刻印詳細

画像⑥マンホール蓋刻印詳細

画像④～⑥は、画像①～③の波と錨の刻印の詳細である。横須賀では、このような波と錨を組み合わせたインフラ関連の鋳造品が、旧横須賀海軍工廠(現在日米軍横須賀基地)内にも僅かだが残っており、現在も使われているようだ。他に、波の文様と海軍用地という文字が刻まれたコンクリート製用地杭も横須賀海軍水道が敷設されている神奈川県央から横須賀市内に至る各所の街なかに点在している。

波と錨は、大日本帝国海軍の海軍大臣旗に用いられていた海軍を象徴する図案である。海軍大臣旗は、海軍大臣が公務で軍艦等に乗艦した際に掲揚される旗で、そこに使われた波と錨の文様は、マンホール蓋１つを見ても大日本帝国という国家が持っていた権威を表象しているように感じられる。海軍のシンボルが鋳込まれたマンホール蓋や消火栓等のインフラ関連の鋳造品からは、軍事施設として国策で都市整備が行われた街の来歴や都市インフラが担った用途を海軍の街の路傍で静かに伝えているのだ。

3.　「台湾の煉瓦王・後宮(うしろく)信太郎」　　理事　小野　章（会員No.9）

後宮信太郎は、明治６年京都府北桑田郡神吉村（現南丹市八木町神吉）の農民・後宮力の長男として生まれ、同志社英学校（現同志社大学）に入るも家業が傾き中退、明治 27 年朝鮮半島に渡り、日本軍の物資調達に携わり利益を得ました。翌明治 28 年台湾に渡航、台北の総督府納入業者の共同商会に入社しますが、31 年煉瓦製造会社の鮫島商行に移りました。これは台湾総督府文書課長の鮫島盛が鉄道敷設などによる煉瓦需要を見越して興した会社でしたが、鮫島は明治 32 年に死去、後宮は資本金２万円を買い取り社長として経営を引き継ぎました。

明治 36 年に最新式のホフマン式煉瓦焼成窯を導入し、当面は鮫島商行として運営、大正２年に総督府が 130 万円を出資して台湾煉瓦株式会社に改組しました。第一次大戦中には大陸へも輸出しました。大正７年にはライバル社のサミュエル商会（イギリス系）など多数の企業を買収し、島内最大の煉瓦製造会社に発展させ、煉瓦王の異名をとりました。台湾総督府庁舎など島内の多くの煉瓦建造物や鉄道施設には同社の製品が使用されています。このほか、彼は耐火煉瓦やビールの製造会社を設立、金鉱山も買収し、金山王とも呼ばれました。

昭和８年に東京に本拠を移しますが、台湾を中心に多くの企業の設立に関わり、台湾総督府評議員、台湾商工会議所会頭、台北商工会議所会頭などを歴任しました。次弟にブラジルや朝鮮で活躍した実業家・後宮武雄、四番目の弟に陸軍大将・後宮淳(じゅん)がいます。昭和 34 年逝去。

鮫島が当初採用した煉瓦焼成窯は、伝統的な3基の「目仔窯」で、一種の登り窯のような形式ですが、明治 33 年ころ「蒸篭窯(せいろがま)」（初期の真円形ホフマン窯）に改め、明治 36 年には大阪窯業㈱から中村技師と職人を招き、長円形のホフマン窯（八卦窯・霍夫曼窯(ホフマンがま)）を設置しました。高雄市(かおしゅんし)（旧名・打狗）には、旧「台湾煉瓦会社打狗工場」の巨大なホフマン窯１基が良い状態で保存されており、「国定古蹟」になっています。ここは、戦前の最盛期には、６基のホフマン窯が稼働している島内最大の煉瓦工場でした。

第二次大戦後は、中華民国の民間工場となり、煉瓦生産が引き継がれましたが、製鉄所で使用する耐火煉瓦の生産のための「倒焔窯」３基を増設、昭和 60 年まで生産を続けました。

このほど、台湾の鄭銘彰氏から旧台湾煉瓦㈱の製品１個が舞鶴市立赤れんが博物館に寄贈されましたので、会報で紹介させていただきました。

後宮信太郎氏

高雄市・旧台湾煉瓦㈱のホフマン窯
（中華民国国定古蹟、写真鄭銘彰氏）

寄贈された旧台湾煉瓦㈱の煉瓦
（菱形に T.R　刻印）

4. 「赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会」概要について　　事　務　局

昨年の富岡大会で本年開催地として決定した舞鶴大会の日程等概要が固まったので、以下お知らせします。

◇開催日　　平成２７年１１月１４日（土）・１５日（日）
◇場　所　　舞鶴赤れんがパーク（２号棟・４号棟）
◇内　容　　一日目　13:00 受付開始、14:00～シンポジウム（２号棟）、17:30～懇親会（４号棟）
　　二日目　視察（Ａグループ／東郷邸・造船所・旧北吸配水池ほか）
　　（Ｂグループ／引揚記念館・赤れんが博物館・海軍ゆかりの港めぐり遊覧船・
　　神崎ホフマン窯ほか）

5. 平成 27 年度法人通常総会について　　事　務　局

平成 27 年度 NPO 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を下記の通り予定しています。
後日別便にてご案内させていただきますので、ご出席よろしくお願いします。

◇開　催 日　　6月7日㈰　午後２時～
◇場　　所　　法人事務所(舞鶴市字浜 247 番地、3F)
◇議事内容　　①２６年度会計決算・事業報告　②２７年度予算・事業計画　③役員改選

6. 編　集　後　記　　事　務　局

当法人の中心メンバー森口理事の急逝で、いまだに立ち直れない状況にある。これから定年までの３年、斬新な行政推進を期待していただけに残念でならない。また、当法人の後継を誰よりも期待していただけに言葉が見つからない。彼と常に語り合った将来への熱い想いを、可能な限り成し遂げる事で報いたいと思っている。

さて、さる3月１６日、京都商工会議所主催・第３回京都ブランド推進特別委員会で講演を行った。これは、昨年度受賞した当会議所主催の「京都創造者大賞 2015『もてなし・環境部門』」の対象となった「舞鶴の赤煉瓦を活かしたまちづくり」についての報告であった。この特別委員会は、立石義雄京都商工会議所会頭体制のもとで、「創造性が開花するまちの推進」を目指し、伝統や文化、昔からの「生き方の知恵」などをベースにして、新たな価値観を生み出す知恵プロジェクトの創出及び連鎖を図ることなどを目的としたもので、多くの京都の企業の代表を前にして、京都府北部「海の京都」への関心の大きさを肌で感じつつ舞鶴市観光等のＰＲに努めた。本年７月の京都縦貫道の全面開通により京都市方面から時間短縮するメリットを最大限生かし、多くの観光客を招き入れ、また港の活用促進で活性化することを期待したい。（ｂ）

会 員 資 格：　会費納入者（特別会員は除く）。入会金 1,000 円、年会費（個人 2,000 円、法人 10,000 円）。
　　なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けています。
会費・寄付金等　振込先：　ゆうちょ銀行　口座番号　(01010-6-21476)　　加入者名：赤煉瓦倶楽部舞鶴